

神経精神科

(1) スタッフ(平成26年3月31日現在)

部長:山岸 洋

副部長:坪倉 誠

副部長:藤本 心祐

応援医師:丸山 千佳

応援医師:村井 俊哉

応援医師:須賀 英道

応援医師:深尾 憲二郎

応援医師:河野 藤正

応援医師:岩崎 明日香

臨床心理士:吉岡 千波

(2) 診療体制と特徴

1. うつ病などの気分障害や神経症圏の病態を中心に、統合失調症や症状性・器質性精神障害なども含む精神疾患全般の診療を行なっている。平成17年7月より神経精神科外来では、初診の完全予約制を実施している。これによって、外来新患に対するより綿密な診断とより上質な治療導入過程が実現されることを目指している。

2. 平成18年度までは54床の精神科病棟において開放的な環境の中で幅広い精神疾患の入院治療を行なってきたが、平成19年春より病床数を変更し、届出病床数20床とした。開放病棟の枠組みは維持して、わが国の総合病院精神科病棟の中でも最良質の精神療法的環境を提供できる病棟を目指す。平成22年度は診療報酬改定により、算定基準の変更のため15:1入院基本料を算定することとなった。なお平成25年2月28日に届出病床数を20床から12床に削減した。

3. MRI・CT・脳波や知能テスト・心理テストなど各種検査を通じて、身体と心理の両面から精神疾患にアプローチし、診断に役立てている。

4. 必要に応じて、臨床心理士によるカウンセリングを行ない、治療に役立てている。

5. 精神保健福祉士が相談に応じており、医療面で利用できる制度や社会資源の紹介を行なっている。保健センターや作業所なども密接に連携し、患者の早期社会復帰を目指している。

6. 入院統計:

神経精神科が入院担当した今年度入院患者(平成25年4月1日から26年3月31日までの期間に新たに入院した患者)のべ数は 65名(男性 10名、女性 55名)(昨年度は84名、一昨年度は111名)であった。その疾患別内訳は、気分障害圏(F3)が 38名(58%)、統合失調症・統合失調症型障害及び妄想性障害(F2)が14名(22%)、神経症性障害・ストレス関連障害及び身体表現性障害(F4)が8名(12%)、症状性を含む器質性精神障害(F0)が2名(3%)、生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群(F5)が2名(3%)、てんかん(G4)が1名、などとなっている。神経精神科担当入院患者の今年度の年間在院延日数は3821(昨年度 4200、一昨年度 4858)、年間入退院数は126で、平均在院日数は67.6日(昨年度 52.2日、一昨年度 46.0日)であった。

7. 外来統計:

神経精神科の今年度外来患者のべ数は 14070 名(昨年度 14555 名、一昨年度 15350 名)、

今年度病院営業日数は282日(昨年度 281日、一昨年度 284日)であり、1日あたり外来受診数は49.9名(昨年度 51.8名、一昨年度 54.0名)であった。また今年度外来初診総数は339名(昨年度 444名、一昨年度 379名)であった。

また平成26年3月1ヶ月間における外来受診患者(実数995名、うち男性358名、女性637名)の疾患別内訳は、気分障害圏(F3)371名(37.2%)、統合失調症圏(F2)360名(36.1%)、神経症圏(F4)169名(16.7%)、器質性精神障害圏(F0)51名(5.1%)などとなっている(なおF1=8名、F5=8名、F6=6名、F7=14名、F8=7名、F9=1名)。

臨床心理士によるカウンセリングは月平均59回(昨年度月平均60回)、同じく心理検査は年間総数147件、うち能力検査95件、その他52件(昨年度は年間総数185件、うち能力検査116件、その他69件)が行なわれた。

(3) 主な院外活動

大阪精神科懇話会を年1～2回共催し、精神科領域のエキスパートを講師に招いている。

第69回大阪精神科懇話会

日時：平成25年11月16日(土)18:00～

場所：山西福祉記念会館(大阪市北区)

座長・司会：池村義明, 山岸洋

講師：野間俊一(京都大学医学部附属病院精神科神経科・講師)

講演演題：「解離性同一性障害の臨床」

(4) 研究

①学会発表

1)植野仙経, 山岸洋 体系的性格学と非体系的類型学

——シュナイダーの議論の現代的意義 第17回精神医学史学会 2013/11/9(東京)

②論文発表

1)山岸洋:パラノイア/妄想性障害——ドイツ語圏の精神医学を中心に. 臨床精神医学 42 ; 21-24, 2013.

2)山岸洋, 村井俊哉:神経心理学の古典的症例——今日の意味. 症例 Phineas Gage. 神経内科 78 ; 446-451, 2013.

3)山岸洋:漂える精神医学. 福岡行動医学雑誌, 20(1) ; 135-136, 2013.

4)山岸洋:治療者・患者関係の確立のために初期治療で留意すべきこと. 精神科治療学 29(7) ; 2014.(印刷中)

5)山岸洋:精神医学が精神医学でなかったころ. 福岡行動医学雑誌, 21(1); (印刷中)

③著書

1)山岸洋(著・訳):新・精神病理学総論. 第六部「人間存在の全体」. 学樹書院, 東京, 2014. (印刷中)

2)山岸洋:統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群——診断概念の変遷(DSM-III導入前まで). In :村井俊哉ほか(編)DSM-5時代の精神科診断. 第2巻:統合失調症スペクトラムおよび他の精神病性障害 / 物質使用と嗜癖の障害. 中山書店, 東京, 2014. (印刷中)

3)山岸洋(共訳):米国精神医学会(著者), 高橋三郎ら(監訳):DSM-5. 医学書院, 東京, 2014. (印刷中)

4)山岸洋:岩倉の精神科医療. In:村井俊哉ほか(編)精神医学のおくゆき. 創元社, 大阪, 2014. (印刷中)

(以上)